

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
今回は特別号として、数年前より当院で治療されている、
患者様からのお手紙をご紹介します。

心癒されるリハビリテーション

月足 美智子

私は、このリハビリテーションに通院して三年目になる。
最初は腰の下の一部が、筋肉が堅くなり痛みがあった。
すぐ角整形外科に行き院長先生の診察を受けたら
「リハビリをするといいですよ」と言われ、早速その日から治療してもらった。
リハビリ室に入ったならなんとなく、ふんわりしたムードで安心し
「よし、ここで治療してもらおう」と決意した。
三カ月ほどしたら痛みもなくなりホッとした。
院長先生から
「一生自分の足で歩けるようにリハビリを続けたらいいよ」と言われ
現在に至っている。
リハビリ室のムードがいいのは職員のみなさんが優しいからと思った。
みんな一生懸命に患者に接し、癒しの治療をされているからだ。
最近、私にとってリハビリをしてもらっている時は、
想像の世界へ行くひとときとなつている。
ベッドに横たわり目を閉じていると、幻想的な想いが湧いてきて、
夢の世界へ入り込んでいく。
目をあけると、気持ちよさそうにリハビリをしてもらっている人の顔は
さまざまだが、幸せな表情で目を閉じたり微笑んだりしている人達を見ると、
心あたたかくなり「みんな気持ちいいのだな」と思つて私も気持ちよくなる。
順番を待っている時に窓の外を見ると、ピンク、紫の花が風にゆれ
歌っているようで、また踊っているように見え、一人で「かわいいね」と呟いている。
花も私を見てくれているようだ。心の中にも花が咲く。

花を見ていると昔にタイムスリップして、いろいろなことを思い出し
ロマンチックな気持ちになる。私の心は夢の世界を旅しているのだ。
順番が来てハッとして我に返り、リハビリをしてもらおう。
その時も体中の血がサラサラと流れ体が軽くなり、
少し凝っている所を押してもらおうと気持ちよく体全体が喜んでみるみたいだ。
心も若返るひとときで快適である。

今はリハビリの日を楽しみにしている。
待合室で待ち長いのは苦になつていたが、
よく考えたと患者同士の交流の場となり、得ることも多い。
親しい友もできて話すのも楽しみになる。
久留米の病院の医師に話したら
「交流は大切です。痴呆にもなりませんよ」と言われた。
私は不整脈なのでクリニックに通院している。その時
「リハビリに行っています」と言ったら、
「それはいいですね。血流にいいですからね」と言われ、
不整脈にもいいので良かったと思つている。
リハビリから帰る時は、受付の人も笑顔で送つてくださる。
帰つてからも体が軽くていい。

リハビリから想像の世界へ連れて行ってもらいたい、
心のリハビリと体のリハビリをしてもらっている。
ずっと続けて自分なりの楽しい日々の老後を生きていきたい。

編集部から一言

今回のお手紙は心打たれるものがありました。
当院の掲げる理念であり、スタッフの目標でもある
『患者に学び、患者に返す』
その実現に何が必要かを再認識させて頂けるお手紙だったと思います。
本当にありがとうございます。
今後患者様のために精一杯努力していきますので、
様々なご意見をお聞かせ頂けたら幸いです。
今回、お手紙頂いた月足様、本当に貴重なご意見ありがとうございました。